

1月臨時議会

平成23年第1回市議会臨時会が1月25日に開かれました。上程された議案は2件で、原案のとおり可決されました。

歳入歳出とも2億3、374万2千円を追加し、予算総額155億2、088万9千円となりました。

活道路・道路排水路・河川護岸工事費8,000万円、仁賀保勤労青少年ホームの舞台照明等教育施設整備費5,070万円、岡の谷地グランド整備費400万円、県のドクターへり運用に対応するための緊急離着陸場整備費300万円、図書館バリア

フリー事業費370万円、無料となる子宮頸がんの予防接種費1、044万2千円など、増額補正となっています。

子宮頸がんの予防接種に係る国・県の助成制度の詳細については、次号で紹介します。

NPO&ボランティア 対談 民のパワーで地域づくり

●鳥海山にブナを植える会
須田和夫氏 「B」

●エヌポック
佐々木久弥氏 「N」

●モミガラパワー
齋藤修一氏 「M」

進行 企画情報課広報広聴班
村上、渡部、須田 「広」

新産業を興す、起業するとして
海のもの、山のもの、天然資源は
結構あると思いますよ。誰かが一
歩踏み出せば。モミガラパワーは
試金石になる。

M) 補助金があつても、自己資金
がないとね。簡単な話ではない。
色々なもの、全体をつなぐよう
な、人、動きがあればいい。それ
は行政かもしれないが。あるいは
それぞれの活動が連携すれば、新
しい種は生まれてくる。例えば、
須田さんの話を引き継ぐと、「鮭
加工の乾燥機械が安ければやりた
い」「安く乾燥させる、加工する
方法があるよ」そんな2人がいれ
ば、起業は可能ですね。誰か、
間を取り持つことができれば、
一つ一つは小さくとも、そんな
企業が何十、何百集まればと。夢
のある話。

広) 色々な素材、活動、可能性が
あるようです。盛り上がりつて来た
ところですが、会場を移したいと
思います。



ここからは 大放談会（酒宴・会費制）

B) 最近「環境」という言葉が、シャワーのように降りかかるつてきているが、我々が発足した頃は、ブナの森を復活させようと、それだけが目的だった。その後「地球温暖化」という言葉が定着し、我々の活動にもオマケのように、環境保全、温暖化防止という役割が付くようになつた。ただ植える。そうはいかなくなつた。

ブナを植える10月は忙しい。会の植樹日のほか、TDKグループ、学校、その他と、植樹の日が5日間。準備があるので非常に忙しいほかにも自然に親しむような活動や、遊びも取り入れたいという気持ちもあるが、まだ、時間が必要かもしれない。

N) どうしてですか？

B) 国全体が、杉植林に向かつていたのです。何の役にも立たない雑木林から、建材として杉を植えろと。国が補助金で誘導した。

M) 今思うと、もつたいない。
広) 齋藤さんはTDK校友会（退職者の会）の環境同好会にも所属しているそうですが。

M) 感心に思うことは、毎年、退職者がいて、2、3人は、環境同好会に加入してくれる。労力を提供するだけで、自分に特典がある訳でないのに。木を植えることに意味を持たせている。世の中、まだ、そう捨てたものでもないのかな。

N) そうですね。

広 地元産木材、外材、非木材とコストの差が相当ある。森林の荒廃は、数年来言われていますね。

M) 私有林に対して、どれだけ公的な強制力を持たせられるのか。社友会では金浦の砂防林で健全化のため作業をしている。公有林では松くい虫対策をしているのに、隣接する私有林は放置される。これで被害対策がうまくいくのか。間伐にしても同じなのでしょうが、モミガラパワーは、処理に困つていたものを何とか利用できなかつといふところから、1つの業

そこで終わつてゐる。最終的に、消費者、加工者、生産者にメリツトをもたらすものがなければ意味がない。そこを我々は、モミガラを素材として考えようとしているのです。里山林にしても同じように、長期的、継続的にメリツトをもたらす仕組みが必要と思う。

B) 私は農業の会社組織を立ち上げて十数年、有機肥料も使ってゐる。肥料の原材料には三陸の魚がいいとかなんとか。しかし、この地域でも魚介類が豊富に採れる。力キの貝殻や採卵後の鮭など、その気になれば何かに使える素材があると思う。一度肥料化に取り組んでみたが、資金的に挫折。乾燥用ボイラードにたくさん灯油を使用する設備で、原油価格高騰もあって、本格稼働せず逆によかつたけれど。

前ページから続く

M) 色々な団体に派生しているよ

M) まあ、一切そういうことをし

として成立させようと、地域の盛